



TITLE:

營業利益課税新案

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 營業利益課税新案. 經濟論叢 1915, 1(3): 352-372

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126899>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷一第

論說

●染料藥品生産獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(一)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(三)

雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領地研究ノ一やつふ島研究

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農產擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

法學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 小川郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 高田 保馬

法學博士 河上 肇

營業利益課稅新案

法學博士 神 戸 正 雄

一

近頃予が財政上重大ナル事實トシテ注意シタルモノガ内外ニ亘ツテ二ツアル。
一ハ「たいむす」特電ニ依ルト、英國政府ガ戰爭ニヨリテ利益ヲ得ル所ノ商工業者ニ
賦課スベキ新稅案ヲ今次ノ議會ニ提出シ其協賛ヲ求ムルデアラウトイフユトデ
アル。固ヨリ其課稅方法ノ詳細ヲ知ルコトハ出來ナイガ、此度ノ大戰爭ニ依ツテ一
方、血稅ヲ拂フノ國民ガアリ、經濟上大損失ヲ被ムルノ庶民モアル他ノ一面ニ、海運
業者軍需品供給業者、染料藥品業者等ノ如ク過大ナル利益ヲ受クル者アルニ於テ、
此兩者ノ間ニ、負擔ノ公平ヲ期スル爲メニハ、少クトモ後者ニ對シテ其利益ノ大ナ
ルニ應ジテ何等カノ方法ニテ特段ナル租稅ヲ課スルヲ至當トスルトイフコトニ
ナル。勿論之ヨリシテ政府ノ收得スル所ノモノヲ以テ、這回ノ大戦費ニ應ズルニ於
テ、殆ンド九牛ノ一毛トイフヘキ程ノモノデアラウケレトモ、尙ホ多少ノ補足トハ

ナルコトガ出來、負擔ノ爲シ易キ所ニ於テ負擔ヲ爲サシメ、戰費依租稅ノ主義ヲ達スルコトモ出來ル。第二ノ事實ハ日本ニ於テ多年國家ヨリ世界ニ比類ナキ程ノ手厚キ補助及獎勵金、年額五百餘萬圓ヲ受ケ來リタル郵船會社ガ平素一割トイフ普通率ヨリハ大ナル配當ヲ爲シツツアリタル其外ニ、年々莫大ナル積立金ヲ爲シ置キタル其ノ積立金ヲ以テ、今回先ツ株式ヲ倍數ト爲シテ、新株一株ニツキ拾貳圓五拾錢宛、合計五百五拾萬圓ナル第一回ノ株式拂込ミニ振替エ、更ラニ一株ニ付キ六圓貳拾五錢宛、合計貳百七拾五萬圓ノ現金交付ニ充テ、即チ總計八百貳拾五萬圓ヲ現株主ニ配當スル尙其上ニモ、創業三十年滿期ヲ期シ社員ノ功勞ヲ表彰スル爲メ現金貳百拾五萬圓トイフ大金ヲ支出スルトイフコトデアル。此方ハ固ヨリ前者ノ如ク此度ノ戰爭ニヨツテ特ニ生ジタ現象トイフノデハナク、元來此會社ガ平生カラ異常ニ儲カル會社デアリ、斯種ノ配當ヲ嘗テモ此會社デ行ツタコトガアリ、日本デハ他ノ國家的特別保護ヲ受ケ特ニ獨占的意義ヲ有スル銀行會社ニテモ此種ノ事ヲ行ツタ例ガ少クナイノデ、今更ナガラノ珍奇現象デハナイガ、今度ノ郵船會社ノニハ積立金ノ新株振替ニ加フルニ、莫大ナル現金交付、及ビ異常ナル役員賞與金

ノ伴フニ於テ、殊更ラ世人ノ注意ヲ引カザルヲ得ナイ。斯ノ如キ大配當ヲ爲シ得ルコトガ果シテ資本家ノ努力ノ結果トノミ見ルヘキデアラウカ。又大ニ社會國家又ハ其他ノ外界ニヨリ負フ所ノモノアルノ結果デハナカラウカ。斯ノ如キ會社ガ其他ノ國家社會等ニヨリ負フ所ノ少キモノト同率ナル又ハ事實其ヨリモ低率ナル(所得稅ニ於ケル種別課稅ノ結果、箇人企業者及特定會社企業ニ對シテ割合ニ低率ノ課稅ヲ爲サルルコトトナル)租稅負擔ヲ爲シテ居テ其デ長カラウカ。或ハ彼レ高率ノ利益ヲ擧グル所ノ企業ニ對シテ其低率ナルモノニ比シテ一層重キ租稅負擔ヲ課スルコトヲ至當トセナイデアラウカ。一ノ問題トナラナケレバナラヌ。

二

右最近ノ事實ヲ捕エ來ツテ讀者ノ注意ヲ促サントシタル事項ハ之ヲ理論上カライフト次ノ如クニナル。凡ソ租稅負擔ノ公平トイフコトニハ對內的ト對外的トノ兩意義ガアリ、其ノ對內的負擔公平トイフノハ、各人民ノ給付能力ノ大小ニ適應スル負擔ヲ課スルトイフコトデアリ、日本現在ニ於テハ、之ガ反面タル負擔ノ不公平ガ一般ニ存在シ、其ガ國稅ニ於テヨリハ地方稅ニ於テ特ニ一層著シクアリ、更ラ

ニ生業ノ種類ニヨリ負擔ノ均衡ガ取レテ居ラズ、農業者過重負擔ヲ爲シ利殖者階級過輕負擔ヲ爲スノ實アルコトハ予ガ五月號ノ國民經濟雜誌ニ於テ説明シタル所デアル。其節予ノ言殘シタル所ノモノデ而モ實際重要ナル事項ノ一ハ、地理的負擔ノ不公平トイフコトデ、即チ同等ノ給付能力ニ對シテ甲ノ地方ト乙ノ地方トニヨリ負擔ノ輕重ヲ異ニスルコトデアル。其原因ハ主トシテ地方財政ニ在ルノデ、頗ル興味アル事柄デハアルガ、此ハ日ナラズシテ別ニ詳細ナル研究ノ結果ヲ發表スルコトトシテ、茲ニ之ヲ省キ、尙ホ更ニ重大ナル他ノ問題ハ國稅ニ於テ各人民ノ給付能力ノ大小ニ適應スル負擔ヲ課スル上ニ、爲スヘキ精細ナル注意工夫ノ未ダ盡サザルモノ多シトイフコトデアル。唯ダ漸ク所得稅ニ於テ資産所得勤勞所得差等課稅ノ趣意ヲ多少斟酌シ、相續稅、取引所稅等デ僥倖所得又ハ不勞所得ヲ重課スルノ趣意ヲ多少採用シテハ居ルガ、資産所得勤勞所得差等課稅トイフコトモ全體ノ租稅制度ニ亘ツテ設計セラレテ居ナイカラ、到底不満足タルヲ免レズ、隨ツテ前ニイフ如ク農業者過重負擔及ビ利殖者過輕負擔トイフ結果ニ歸着スル。又僥倖所得又ハ不勞所得重課ニツキテモ、取引所稅ハ可ナリ重イガ相續稅ハ適當ニ寬大デ、此點

ニ於テ不満足デアル。但ダ其ハ日本ノ特殊ノ家族制度ノ結果已ムヲ得ザルニ出ヅ
 ルトシテ暫ラク不問ニ附スルトシテモ、今日ノ世ノ中ニ於テ土地所有者又ハ營業
 者ガ社會國家等外部ノ力ニ依リテ自己ノ力ニ依ラズ又ハ其力以上ニ或利益特ニ
 普通率以上ノ巨利ヲ受クルニ對シテハ別ニ課稅スルノ至當ナルモノガアル。其ヲ
 日本デハ未ダ課稅上注意シテ居ラナイ。之ヲ注意シ實行スルコトガ財政上ノ一要
 務デアル。土地所有者ニ對スル斯ノ如キ課稅ハ所謂土地增價稅ノ問題デ、此ハ日本
 デコソ地方ニ於ケル之ガ萌芽的制度ヲ別トシテハ、未ダ實行サレテ居ラナイガ、外
 國デハ既ニ久シキ以來行ハレテ居ル。獨リ營業者ニ對スルモノニ至テハ未ダ孰レ
 ハ國ニテモ實行ノ機運ニ入ツテ居ラヌ。ダダ本論文ノ初メニ擧ケタ英國ノ新案ハ
 恐ラク之ガ第一步デアラウシ、日本ノ郵船會社ノ配當ニ關聯シテ予ノ注意シタル
 所ノモノ亦タ之ニ外ナラナイ。予ハ茲ニ此課稅問題ニツキテ一ノ提案ヲ出タサウ
 ト思フ。固ヨリ其以外ニ日本ノ所得稅法ニ於テ人的事情ノ考察、即チ負債ノ有無、家
 族ノ大小、疾病ノ有無等ノ斟酌ヲ缺クノ缺點モアルガ、此等ノ問題ハ事新ラシク説
 明スルノ値ナキコトデアル。

三

諸テ本論ニ入ツテ營業稅ヲ課スルノニハ種々ノ主義カアル。或ハ收益ニ依リ、或ハ外形の標準ニ依リ、或ハ收益能力ニ依ルノデアルガ、一々説クノ必要ハナカラウ。其中收益ニ依ルモノノ中ニテモ、日本ノハ主トシテハ外形の標準ニ依ルガ多少ハ賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額トイフモノニ依リ、即チ總收益ニモ依ル所デ、其收益ニ對シテハ比例課稅主義ヲ探ル所デアルノニ、獨逸デハ其ノ之ニツキテ收益ニ依ル主義ヲ探ル國デ收益ノ大小ニ應ジテ多少累進課稅主義ヲ探ルノ例ガアル。(例之ヲゆるてんべるひノ如シ。ばいゐるんノ新法ハ營業稅ニ於テ資本標準ト收益標準トヲ併セ用エルガ、後ノ標準ニ於テ矢張り此意味ノ累進課稅ヲ行フ)然ラバ此比例課稅ト累進課稅ト孰レカ適當デアラウカ。此ガ問題デアル。予ハ斯ノ如ク收益金額ノ大小ニ應ジテ課稅スルトシテハ、累進課稅ハ不公平ナルモノト思フ、其理由ハ(一)先ツ自然人ニ就イテ見レバ營業收益ナルモノハ本來必スシモ租稅主體タル人ノ全給付能力ヲ示サナイデ、其一部ヲ示スコトガ不少、營業收益ノ全給付能力ニ對スル地位ハ或ハ大ニ或ハ小デアル。然ルニモ拘ラズ其收益金額ノ大小ニ應ジ

テ累進課稅ヲ爲スコトトナルト、負擔ノ公平ヲ失スル結果ニ陷ル。即チ全所得ノ小ナル者ノ唯一ノ所得タル大營業收益ニ對シテ、大ナル全所得ヲ有スル者ノ諸多ノ收益中ノ一ニ過ギザル小營業收益ニ對スルヨリモ一層高率ナル課稅ヲ爲スコトハ決シテ公平負擔ヲ齎ラス所以ノモノデナイ。(二)次ニハ今日ノ營業ニハ特ニ大中之營業ニハ會社、株式組織ナルガ少クナク、又益々其増加スル傾ガアル。然ルニ此會社ノ營業收益ノ大小ニ依ル累進課稅モ亦タ擔稅指定者タル株主ノ給付能力ニ適應シテ公平ナル負擔ヲ課スル所以デナイコトニナル。但シ此場合ノ擔稅指定者ハ、右營業稅ガ一ノ直接稅タル以上、右ノ會社其モノニ外ナラナイ。株主デハナイトモイハルル。形式論ヲ貫クト斯ノ如キ論結ニモナル。然シ實質的經濟上カラ論ズルト寧ロ然ラズデアル。直接及間接稅ノ區別ノ困難ナルコト、納稅義務者ト擔稅指定者トノ一致ト否トニヨリ之ヲ區別スルノ困難ナルコトハ昔テモ說キタルコトアレバ、此ニハ說カズトシテ、偕テ此場合ノ擔稅指定者ハ何人カ。會社其モノカ、株主カ。均シク法人トイフテモ公法人ヤ公益法人トナルト別デアルガ、今問題トナルノハ營利法人タル會社デ、斯ノ如キ會社ノ存立目的ハ株主ノ營利ノ外ニハ之ナク、會

社ト株主トハ離ルヘカラザルノ關係ニ在ル。會社ハ法律上形式上ニハ株主ト別箇獨立ノ人格者トシテ存立シ活動スルガ、實質上經濟上ニハ株主共同ノ營利ヲ爲ス手段ニ外ナラスノデ、會社一切ノ利害休戚ハ畢竟株主ノ其ニ過ギナイ。形式上會社ヲ納稅義務者トシテ之ニ課セラルル所ノ租稅ハ實質上ニハ株主ヲ課稅セントスルモノデアル。此場合ハ即チ納稅義務者ト擔稅指定者トノ一致スル租稅ヲ直接稅ト認ムル常例ニ對スル例外トシテ擧グヘキ面白キ場合デアル。予ハ今日ノ處斯ノ如キ見解ヲ持ツ。議論前ニ戻ツテ會社ノ營業收益ノ大小ニ應ジテ累進課稅ヲ爲スコトトナルト、大會社ノ小ナル株主ガ小會社ノ大株主ヨリモ割合ニ重キ租稅負擔ヲ爲スコトニナリ、特ニ其大會社ノ小株主ガ其會社ヨリ受クル配當ヲ以テ殆ンド唯一ナル所得トスルニ對シテ、小會社ノ大株主ガ其會社ヨリノ配當ヲ其諸多ノ所得源中ノ小ナル一ツトスルニ止マル場合ニハ右ノ課稅ハ前者ニ過重トナリ、後者ニ過輕トナリ、最不公平ナル負擔ヲ齎ラスコトトナル。テ營業稅ニ於テ收益金額ノ大小ニヨル累進課稅ハ負擔公平ヲ期スル所以デナイ。累進トイフ一層、人工的ナル課稅ニ依ツテ負擔公平ノ期セラレナイ以上ハ、比例トイフ人工的分子ノ比較的少

キ課税ニヨルヲ寧ロ選ブベシトスルコトトナル。日本法ハ此點カラ見テ獨逸法ヨリモ良イ。

四

所得税ニ於テモ之ト類似シタルモノガアル。日本ノ制度ノ如ク所得ヲ三種ニ別ケテ課税スルコトガ本來給付能力ニ適合シタル課税ヲ爲ス所以デナイ。此ハ改メテ人ヲ中心トシテ其ノ之ニ集マル所ノ全所得ヲ一體トシテ累進的課税ヲ爲スヘキモノデ、茲ニ初メテ累進課税ノ最適當ナル應用ヲ見出スコトガ出來ル（一）而シテ此三種ニ別ケテ課税スルノ原則ヲ認め、且ツ第二種所得及普通第一種所得ニ於テ比例税ヲ採ル以上ハ其ノ第三種所得及特定第一種所得ニ於ケル所得金額ノ大小ニ應ズル累進課税ハ給付能力ニ適應スルノ目的ヲ達セザルコトトナルヲ免レナイ。即チ大ナル全所得ヲ有スルモ之ヲ主トシテ普通第一種所得及第二種所得ヨリ舉ゲテ第三種所得及特定第一種所得ヨリシテハ極メテ小額ヲ舉グル者ニ對シテハ、小ナル全所得ヲ有スルモ而モ之ヲ殆ンド全ク第三種所得又ハ特定第一種所得ノミヨリ舉グル者ニ對シテヨリモ割合ニ輕キ租税負擔ヲ課スルノ不公平ヲ生ズ

ルコトトナリ、同一額ノ全所得ヲ有スル者ノ間ニモ、其大額ナル場合ニハ主トシテ第二種所得及普通第一種所得ヨリ擧クル者ガ主トシテ第三種所得及特定第一種所得ヨリ擧クル者ヨリモ輕キ租税負擔ヲ課セラルルノ不公平ヲモ生ズルコトトナル。^(二)去リトテ第二種所得及普通第一種所得ニ於ケル比例課税ヲ改メテ累進課税トスルコトハ出來ナイ。第二種所得ニ於テ徵税ノ簡易トイフ種別課税存立ノ理由カラ現在ノ徵收方法ヲ探ル以上ハ累進課税ニヨツテ公平負擔ヲ得ルコトハ出來ナイ。又普通第一種所得ノ場合ニ於テ其租税ガ株主^(一)又ハ社員又ハ組合員ニ於テ負擔セラルル上カライフト、其會社等ノ所得ノ大小ニ應シテ累進課税ヲ爲スコトハ不公平負擔ヲ齎ラスコトニナル。例之特ニ大會社ノ小株主而モ此株ヨリノ收入ヲ殆ンド其唯一ノ所得トスル者ニ對シテ、小會社ノ大株主而モ此株ヨリ收入ノ外ニ諸多ノ所得ヲ有スル者ニ對スルヨリモ一層重率ナル租税ヲ課スルノ不公平ヲ生ズルコトニナル。故ニ日本ノ現行法ノ根本原則タル種別課税ヲ固執スルナラバ、凡ヘテ比例税ノ方ガ良イトイフコトニナル。然シ斯クテハ給付能力ニ適應スル上ニ適切ナリト認メラルル累進課税ヲ所得税トイフ租税制度ノ基礎的ナル租税ニ

於テ應用スルコトガ出來ナイコトニナリ租稅制度ヲ理想的ニ改良スル所以デナイコトニナル。其ノ之ヲ理想的トスルニハ前ニ戻ツテ種別課稅廢止全所得統一課稅採用トスルノ外適當ナル途ハナイガ若モ之ガ實行困難トイフナラバ則チムシコ比例課稅ガ良イトイフコトナル。

五

斯ク觀察スルニ於テ獨逸ノ一部ニ於ケル營業稅ニ於テ營業收益ノ大小ニ應ジテ累進課稅ヲ爲スノ例モ適當デナク日本ノ所得稅ノ種別課稅ノ下ニ第二種所得及普通第一種所得ヲ累進課稅トスル譯ニモ行カズ隨テハ又第三種所得及特定第一種所得ニ累進課稅ヲ爲スノモ適當デナイコトニナル。所デ所得稅ニ就テハ本來統一課稅トイフコトガ最望マシク、日本法ノ如キ種別課稅ガ望マシカラザルノミナラズ、英國風ノ種別課稅モ望マシクナク、營業收益ト其他ノ種類ノ收益トヲ分別シテ課稅セズ、之ヲ凡ヘテ統一シテ累進課稅スベキモノデアルカラ、此ニ於テ本論文ノ初メニイヘル營業上、社會國家等ノ力ニヨリ、自己ノ力ニ依ラズ又ハ其力以上ニ或利益ヲ得ルガ如キモノニ對スルノ課稅ヲ爲スコトハ出來ナイ事ハナイガ、困

難デアル。營業稅トイフ個別的ナル收益稅ノ處デ之ガ課稅ヲ爲スノ外ハナイ。否ナ
此種ノ課稅ヲ普通ノ營業稅ノ外ニ立ツ特別稅デ課スルコトモ出來得ナイコトハ
ナイ。例之普通ノ地租、土地移轉稅ノ外ニ、土地增價稅ヲ課スルガ如クスルコトモ出
來ル。ガ其ハ煩雜ニ堪エナイ。デ營業稅ニ於テ收益ニ依ルハ主義ガ行ハル所デハ、
其ノ收益課稅ハ上ニ特殊ノ累進ヲ行ツテ此目的ヲ達スルコトガ出來ルシ、又之ヲ
適當トスル。日本ノ現行營業稅ハ寧ロ主トシテ外形の標準ニ依ルコトトナツテ居
ルガ、予ハ本問題ヲ離レテモ之ヲ收益標準ニ改ムキモノト思フテ居ル。若モ日本ノ
營業稅ニシテ斯ノ如クニ改變セラルルコトガ出來ルナラバ、矢張り此營業稅ニ於
テ右記ノ目的ヲ達スヘキモノデアル。併シ若モ日本ノ營業稅ニ於テ外形の標準主
義ヲ固執スルトイフナラバ、別ニ特段ナル租稅ヲ設ケテ夫ノ目的ヲ達シナケレバ
ナラナクナルガ、然ルトキハ必然其特別稅ニ於テ各營業ニ就イテ收益ヲ調ブルコ
トヲ要スルコトトナル。然ルトキハ又營業本稅ニ於テ何ニモ外形の標準ヲ固執ス
ルニハ及バナイコトニナル。即チ所詮夫ノ目的ヲ達スルコトヲ一國ノ課稅方針ト
スルトキハ、營業稅ハ收益課稅主義ヲ採ルノ外ナキコトトナリ、之ニ於テ此目的ヲ

達スルヲ最便トスルコトニナル。之ニ於テ收益ニ特殊ノ累進率ヲ適用スルコトニヨリテ夫ノ目的ヲ達スヘキデアアル。

六

特殊ノ累進トイフノハ普通ノ意義ノ累進ガ課稅標準タル所得又ハ財産ノ増加スルト共ニ稅率ノ遞増スルヲイフノニ對スル別異ノ意義ノ累進トイフガ爲メデ、斯ノ如キ普通ノ意義ニ於ケル累進ニ對シテノ特異ノ意義ニ於ケル累進トシテハ夫ノ相續稅ノ場合ニ於ケル同一ノ財産額ニツキテモ相續者被相續者間ノ親等關係ニヨリ其遠隔トナルニ隨ツテ稅率ヲ遞増スルノヲ指シテ累進トイフ場合モアルガ此ニイフ特殊ノ累進ハ此トモ違ツテ所得又ハ收益ノ資本ニ對スル割合ノ大小ニ應ジテ其大ナルニ隨ツテ稅率ヲ遞増スルノ累進ヲ指スノデアアル。此ガ營業稅ニ於テ營業收益ニ適用セラレテ夫ノ目的ヲ達スルコトニナル。固ヨリ斯ノ如キ累進率ハ人的力ニノミ依ル所ノ所得ニハ適用スルコトヲ得ナイ。營業ノ如ク資本ヲ備ヘ收益ノ之ニ對スル割合ニ多寡變動ガアリ其多寡變動ガ人的力ニノミ依ラズ外部ノ力ニ依ルコト少カラザルニ於テ之ニ應ジテ右ノ如キ累進率ヲ課スルコトガ

出來、又之ヲ至當トスルコトナル。デ或營業ノ收益ノ絕對金額が大デモ其ノ資本ニ對スル相對比率ガ小デアレバ、收益ノ絕對額小ナルモ其ノ資本ニ對スル比率ノ大ナル營業ヨリモ割合ニ輕イ稅率ヲ適用サルルコトトナル。之ニヨツテ公平ガ得ラルル。然ラバ斯ノ如キ累進ノ先例アリヤトイヘバ、アリト答フルコトガ出來ル。夫ノ土地增價稅ノ累進率ニ此ト同一意義ノ累進行ハルトモイヒ得ルガ、土地財産ト營業ト多少趣ヲ異ニスルモノガアルカラ、之ヲ別トシテ營業收益ニツイテハ公共獨占的ナル營業例之街鐵電氣瓦斯等ニ於ケル特別課稅ニ先例ガアル。此等ノモノガ社會公共ニ負フ所アルハ勿論、隨テ之ニ對シテ特別課稅ヲ至當トスル所デアルガ、其稅率ハ其收益ノ資本ニ對スル比率ノ大ナルニ隨ツテ遞増スル。通例人ハ此種ノ事業ガ獨占的ノモノデアルカラ、其利益ガ普通營業ヨリモ多イト考エルガ、實際ニハ此等ノモノニモ往々ニシテ其利益頗ル薄ク、普通利益率以下ナルガアリ、他方一般營業ニモ間々法律上ノ獨占ヲモ有シ又ハ經濟上事實上ノ獨占ヲ有スルガ爲メニ普通以上ノ高キ利益率ヲ享受スルモノガ少クナイ。右イフガ如キ利益率ニ應シテ累進的ニ課稅スルコトハ決シテ獨リ所謂公共獨占の事業ニ限ルヘキモノ

デナク、寧ロ更ラニ一般營業ニモ及ホスヘキモノデアル。予ハ即チ右ノ先例ヲ一般ノ營業ニ推シ及ホサウトイフニ過ギナイ。

七

右特殊ノ累進率ヲ營業收益ニ適用スル理由ハ或營業ガ他ノ營業ヨリモ一層高率ノ利益ヲ舉ゲ又ハ從來ヨリモ一層高率ノ利益ヲ舉グルコトナレルニ就イテハ、平時デモ戰時デモ社會國家ノ力ニ依リ、又ハ少クトモ營業者自身ハ力以外ハ力ニ依ル所アリトイハナケレバナラヌ。元來人ガ營業ヲ爲シ利益ヲ舉グルニ付テハ如何ニ其人的ノ力が大ナリトハイヘ、社會又ハ國家ノ存立スルニ非レバ到底出來得ナイ。又ハ其他ノ外部ノ力ニ依ラヌトイフ譯ニ行カナイ。勿論其外部條件ガ彼ヲ不利ナル地位ニ置クガ如ク影響スルコトモアリ得ルガ斯ノ如キ場合ハ課稅上ニハ問題トナラヌ。課稅上問題トナル場合即チ利益ノ多少トモ伴フ場合ニハ外部條件ノ有利ナル影響ノ伴フ場合デ、道德的ニ感謝ノ念ノ強キ人ナレバ、全ク之ヲ社會國家又ハ其他ノ外部ノ力ニ歸スル位デアル。勿論此ニ營業者其人ノ力ノ影響スル所デアリ、特ニ精密ニイヘバ、利益率ノ高キ場合ニモ社會國家等ノ力ニ待ツコト少

クシテ、箇人的ノ力ニ依ルコトノ多キコトガアリ、利益率ノ低キ場合ニモ箇人的ノ力ニ依ルコト少クシテ社會國家等ノ力ニ負フコトノ多キコトモアラウガ、此ニツキ精密ナル計算測定ノ出來ザル以上ハ、人ハ其利益率ノ高キトキ、外部的力量ノ影響ハ一層大ナリシコトヲ推定シ、其利益率ノ低キトキ、外部的力量ノ影響ハ一層小ナルコトヲ推定スルノ外ハナイ、然ルトキハ前ノ場合ニハ後ノ場合ヨリモ一層大ナル給付能力ガ存スルコトニナル、同一ノ利益金額ニ付テモ其收得者ノ自己ノ努力ノ結果ニヨルコトノ多キモノハ他力ニ依ルコトノ大ナルモノニ比シテ、一層重キ負擔ヲ感ズル所デ、隨テ給付能力ハ前者ニ於テ割合ニ小、後者ニ於テ割合ニ大トイフコトトナル、斯クテ國家ハ利益率ノ大ナルモノニ給付能力割合ニ大ナリトシテ、高率ノ租税ヲ課シ、利益率ノ小ナルモノニ給付能力割合ニ小ナリトシテ、低率ノ租税ヲ課スルヲ至當トスルコトトナル、恰モ相續税ノ場合ニ相續者ノ被相續者ニ對スル親等ガ近ケレバ近キ程、相續ヲ當然ナリトスルノ感ガ強ク、之ガ遠クナレバナナルホド必スシモ當然トイフ感ガ起ラズ、ムシロ社會法制ノ力ニ依ルモノ多シトイフ感ガ強クナリ、隨テ前者ニ於テ給付能力割合小ニ、後者ニ於テ其ガ割合ニ大デ、隨テハ

又前者ニ輕率ノ租稅ヲ、後者ニ重率ノ租稅ヲ課スルコトナルト同デアル。或ハ戰爭ノ爲メニ或營業ガ特ニ大ナル利益ヲ受クルニ對シテ課スル租稅ノ如キ當該課稅權者タル國家カ此戰爭ヲ引起スコトニ與ル場合、例之此度ノ戰爭ニ於ケル英獨佛露日奧伊ノ如キハ之ヲ課スルヲ當然トスルガ米國ノ如ク此戰爭ヲ起スコトニ與ラザル國家ハ其人民ノ此戰爭ニヨリテ特ニ利益シタルヲ課稅スルヲ至當トシナイヤウニ思フ者ガアルカモ知ラヌ。併シ此課稅ガ元來報償原則カラ出テタルモノデナク、能力原則カラ出テタルモノデアルカラ、其利益ガ納稅義務者又ハ擔稅指定者自身ノ力以外ノ力ニ依ルモノナル以上ハ、其力ガ其國家ノ力ナルト、自然ノ力ナルト廣キ社會ノ力ナルトヲ問ハズ、私人ノ力ニ依ラズシテ生ジタルダケニ於テ其根據ニ於テ給付能力割合ニ大ナリトシテ特段ナル重率ヲ適用スルヲ至當トスルコトトナルノデアル。

八

或ハ此課稅ヲ爲スニ於テ箇人營業ノ場合ニハ問題トナルマイガ、會社特ニ株式會社ノ場合ニ問題ガ起ルト思ハルルノハ其會社事業ノ創立當時ヨリ之ニ干與セ

ル株主ノ如キハ此事業ガ段々順調トナリタル爲メ割合ニ重キ租税ヲ擔フコトトナルニ付テ苦情ヲイフマイガ新シク此順調トナレル曉ニ至テ株主トナレル者ハ其利益率ノ高キ株式ニ對シテハ相當高イ代價ヲ拂ツタコトデアルカラ彼ヨリ見レバ利益率ノ低キ株式ト同利廻ニシカ當ラナイ譯デ株自身ノ利益率ノ高キガ爲メニ其低キモノヨリモ高率ノ租税ヲ課セラルルノハ迷惑至極否ナ不公平ナリトイフ苦情ガ起ル事デアル併シ乍ラ彼等ガ割合ニ利益ノ多キ事業ニ關係スルコトトナル以上ハ其事業ガ割合ニ多ク社會國家等ニ負フ所アルコトヲ認メナケレバナラヌ隨テハ割合ニ重キ租税ヲ擔フコトトナルヘキヲ覺悟シナケレバナラヌ之ヲ認メズ又之ヲ覺悟シナカツタトスレバ其ハ彼等自身ノ過失不注意ニ外ナラナイ之ヲ斟酌シ保護スルノ必要ハナイ況ンヤ初メヨリ此事業ニ關係シ又ハ中途ヨリ關係シテ其後其事業ノ益々順調トナレルコトヲ享受セルモノ又ハ特ニ戰爭ノ如キ不時ノ出來事ニヨリテ一層大ナル利益ヲ受クルコトトナレルモノノ如キハ固ヨリ一層高率ナル租税ヲ辭スヘキデナイ。

九

斯クテ營業者ニ其利益率ノ大小ニ應ジテ累進課稅ヲ爲スコトノ負擔公平ニ適合スルコトハ原則上爭ハレナイ。唯ダ其實行方法即チ階級ノ定メ方、稅率大小ノ定メ方ニ至テハ到底精密公平ニ定ムルコトヲ得ルモノデナイ。之ガ累進課稅ノ定メ方ハ凡ヘテノ累進課稅ノ場合ト均シク多少獨斷的タルヲ免レナイ。此ハ累進率ノ弱點トイヘバ弱點デ、之アルガ故ニ累進不可トナレバ今日迄適用サレタル凡ヘテノ累進ノ實例ガ不可トイフコトトナル。此等ヲ認ムルナラバ、現在ノ場合ヲモ認メテ差支ナカラウ。特ニ此多少獨斷也トイフ非難ハ實ハ比例率トイヘドモ免レス。然ラバ此點ハ五十歩百歩ノ議論デ、原則上負擔公平ノ爲メニ適切ナル累進ハ此非難ニ拘ラズ採用スルノ外ナカラウ。其ノ此場合ニ於ケル定メ方ハ結局營業利益ノ資本ニ對スル割合ノ高マルニ伴レテ稅率ヲ高ムルコトトスルノデ、唯ダ其利益ナリ資本ナリヲ如何ニ定ムルカガ問題トナルガ、此ハ多少ノ面倒ハアリトモ、既ニ日本ノ稅法ノ下ニ營業稅自身ナリ更ニ所得稅ニ於テモ其方法ガ一通リ定メラレテアルカラ之ヲ參照シテ適當ニ決定スルコトハ困難デアルマイ。又此累進ヲ採ルニ就イテハ所謂超過累進ヲ用ユルコトガ計算上多少面倒トイフ缺點ヲ伴フニセヨ、脱

税ヲ防グニハ必要デアル。尙ホ右計算上ノ基礎トナル所ノ利益金ニツキテハ當該營業ノ前年中ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタルモノニ依ルヘキモノデ、即チ所謂配當金トハ異リ、配當以上ニ、他日増株振替又ハ現金増配當金等ニ充テンガ爲メニ積立テラルルモノノ如キハ凡ヘテ利益金トシテ計算スヘキデアラウ。但ダ法定責任準備金ダケハ例外ト爲シテ差支ナイ。

十

或ハ此課税法ヲ採ルト、利益率ノ高キモノハ一層高率ノ課税ヲ爲サルコトニナルカラ、虚偽ノ計算ヲ申告シテ脱税ヲ計ルモノガ多クナリ、又事業ニツキ怠慢不熱心ニ流ルルトイフテ非難スル者ガアルカモ知レヌ。併シ脱税トイフコトハ、如何ナル租税ニモ多少ハ免レナイコトデ、營業税ニ於テハ特ニ箇人營業ノ場合ニ其餘地多キコトデアラウガ、之アルガ爲メニ適當ナル課税ヲ爲サナイ譯ニハ行カナイ。又多少虚偽ノ申告ガ行ハレタ所デ、甚シク不實ノ申告ノ行ハルルコトハアルマイ。超過累進デ行クカラ、輕率ノ租税ヲ課セラレヤウトシテ殊更ニ不正申告スルモノモ少カラウ。所謂配當金ノミヲ以テ利益金ヲ計算シナイカラ、輕率ノ課税ニ與ラウ

トシテ殊更ニ配當金ヲ減少スルコトモアルマイ。斯カル租稅アルガ爲メニ人民ガ相率テ營業ニ怠慢不熱心ニナルカ何ウカハ國民ノ性質ニ累ルコトデアル。大體重稅ノ刺戟ニ接シテ怠慢ニ流レ萎縮シテ行クヤウナ國民デハ情ケナイ事デアル。特ニ重イ稅率ヲ課スルトイツタトテ、其ハ利益率ノ高キ所即チ重イ租稅デモ負擔シ得ル所ニ之ヲ課スルノデアラカラ、之ガ負擔シ切レナイトイフコトハナイ。此ノ如キ租稅ハ之ヲ負擔シテ其レダケ一層奮勵努力ニヨリ餘計ニ利益ヲ擧ゲヤウトスル位ノ元氣ガ人民ニナケレバ國民的發達ハ望マレナイ。又超過累進デアラカラ、如何ナル場合ニモ營業者ガ一層利益ヲ多クスルコトハ租稅ヲ拂ツテモ尙ホ剩ス所ノ利益ヲ多クスル所以デアル。理性アル營業者ガ之アルガ爲メニ怠慢不熱心ニ流ルルコトハナカラウ。要スルニ予ガ本論文ノ初メニ擧ゲタ事實ニ應ズルガ爲メニ適當ナル課稅ハ右ノ方法ニヨツテ達スルコトガ出來ヤウト思フ。(七月一日認了)